

## 「意味」を基軸に生み出すイノベーションアプローチ

東京大学大学院情報学環 特任研究員  
株式会社ミミクリデザイン ディレクター  
小田 裕和



### 目 次

1. はじめに.....	1
(1) 株式会社ミミクリデザインのご紹介.....	1
(2) 事例紹介.....	1
(3) ワークショップを体験 チェックイン.....	2
2. なぜイノベーションはうまくいかないのか.....	4
(1) 飛び交うイノベーションの起点論.....	4
(2) それぞれから何を見出そうとしているのか 「意味のイノベーション」.....	5
(3) 何がエンジンになるのか.....	8
(4) 「なぜイノベーションはうまくいかないのか」 まとめ.....	10
3. どうしたら創造的なチームが作れるのか.....	11
(1) 現代社会の課題に共有する特徴.....	11
(2) ワークショップが解決する課題の焦点.....	12
4. マーケティングのアプローチから新たな意味を見出すためには.....	16
(1) 市場に対する議論と対話.....	16
(2) 読み解くべき 2 つのリサーチデータ.....	16
(3) 答えを探しているモードでは、衝動も湧かず、意味も生まれない.....	17

## 1. はじめに

### (1) 株式会社ミミクリデザインのご紹介

株式会社ミミクリデザインは、現在 3 期目のベンチャー企業であり「創造性の土壌を耕す」ことをミッションにしている。基本的にワークショップを中心に、商品開発、人材育成、組織開発、地域活性化など、様々なプロジェクトに関わっており、創造性に関するアカデミックな知見やワークショップの方法論を駆使しながら、いかに現場、場の創造性を高めていくかに重きをおいて活動をしている。

東京大学大学院情報学科の特任助教でもある弊社代表安齋は、長年ワークショップの研究をしており、現在は、学習環境デザイン論の研究室に従事している。そこで様々な企業でのワークショップに携わるようになり、3年ほど前に起業した。実際にどのようなことをやっているか、事例でご説明しよう。

### (2) 事例紹介

#### ①京浜急行「地域に潜む意味を問い直す」

地域活性化の案件。フィールドワークをしながら、地域の中にどのような意味が潜んでいるかを探る取り組みをした。三浦半島というとマグロのイメージが強いが、もうマグロでは人が集まらない。首都圏からは日帰り客が多く宿泊者も少ない上に、定住者も減少している。京浜急行の中でも「そもそもどのような人を三浦半島に呼びたいのか」が、明確に言語化できていなかった。そこで、地域に潜む意味を問い直し「ここに呼びたいのはどういう人達なのか」をもとに、この時はペルソナを作った。そのペルソナを一つの足がかりに「三浦コクーン」というイベントを開催した。

#### ②ADDMA「オフィス家具の意味から考える」

浦安にある金属加工メーカーとの共用プロジェクト。BtoBで依頼された製品を作るだけでなく、自社商品が創りたいという希望があった。金属製ということでオフィス家具という設定をしたが、どのようなオフィス家具があればいいのかだけを考えても新しいものは生まれない。

「そもそも、オフィスにはどのような意味があるのか」、「働くということにはどのような意味があるのか」を、空間設計を手掛ける「ツクルバ」やスタートアップ支援などを手掛けるメディア系ベンチャー「インクワイヤ」などとコラボレーションで、ワークショップなどをしながら考えていった。ある日は一日オフィスの意味について語り合い、語った内容をグラフィックレコーディングで残していく。そこに書かれた内容を見ながら、様々な対話を引き起こしていくということをした。その時は「いろいろな場所で働けるようになってきたのに、今さらオフィスが必要か」という話から、「オフィスに毎日通うことによって自分の心が動いていたり、人が集ってきたりして、神社のような存在なのではないか」という話があった。神社のリサーチなどするうちに「神社には結界のようなものがある」というこ

とが見えてきた。そこから、「自分の居場所の結界」というイメージが生まれて ADDMA という家具を創った。様々な自分の結界の中で、自分の心地よい場所や機能をつくることのできるオフィス家具をアウトプットし、最近発表することができた。

基本的に我々のワークショップは、普段とは異なるものの見方、違った「まなざし」から観ることによって、新しい何かが見えてくるということをベースにしている。そしてそれをどうやって引き起こしていくのかを、様々な形式で提供している。本日はこのような観点から、我々がどのような考え方で、商品や事業、あるいはそれを形作る組織などを捉えているのかをお伝えしたい。

### (3) ワークショップを体験 チェックイン

#### ワークショップ I

会場座席の周囲の人と 2~4 人で集まって以下の話題を話し合う。

①お名前 (ニックネーム)

②普段のお仕事は?

③イノベーションとして 思いつく事例や 方法論は?

イノベーションとしてどのような事例を思いつくか?あるいはどのような方法論、やってみたいと思っているか。あるいは、やっているか

④プライベートでの 最近の”イノベーション”は?

イノベーションの捉え方を少し広げてみる目的で、プライベートな話もする。

thinking time & share time

#### <受講者①>

PayPay などを使うつもりはなかったが、知らず知らずのうちに使っていたという人がいる。自分も電子マネーは怖いというイメージがあったが、いつの間にかダウンロードしていたので、確かに生活に入り込んでくるイノベーションというのはあると実感した。

気づいたら日常生活に入り込んでいたというものがある。Suicaなどは、今では無い世界は考えられないくらいになっている。そのくらい急激に生活を変え、いつの間にか自然と普段の生活に馴染んでいるというところが、一つのイノベーションではないか。

#### <受講者②>

イノベーションとして思いつく事例としてあげたのが、Amazon Go だ。身近にはないが、「万引きするように買い物できる」というのは、なかなかすごいと感じた。

プライベートで上げたのは布団乾燥機。私は、乾燥させるためではなく、温めるために使っている。布団に入った時に温かいのでとても気持ちが良い。